ワンニャン通信

2017
12月号

今年も残りわずか、最後の月になりました。年賀状や大掃除・新年の準備で忙しいこの時期、ゆったり寝ている動物たちを見ていると羨ましくなります。私もコタツの中でぬくぬくしていたい！！

さて、今回は春になると出てくるハチやヘビに「ささされた」「かまれた」時の対処について少しだけ触れたいと思います。

一緒にお出かけした時などに、動物たちが被害にあった場合どういう症状が出るのか・何をしたら良いのかをチェックします。

ハチ

～ハチの毒について～

神経毒を中心に多くの成分によって構成されている『**混合毒**』です。
毒液が注入されると、その場所が炎症を起こし腫れや痛みを引き起こします。
通常はハチの毒で死に至ることはありませんが、怖いのはその毒により『※　アナフィラキシーショック』を起こしてしまった場合です。
ショック症状が出ると、死に至ることがあります。

※ アナフィラキシーショックとは？
毒と接触してから 10～30 分で起こる「**即時型アレルギー反応**」のことで、呼吸困難や血圧低下・意識がなくなるなどの虚脱状態が起こります。

～動物の様子～

刺された刺激と炎症から、その場所を舐めたり、気にして引っかいたりします。頭を刺された場合は頭を振ったりします。

ステップ 1.　針の除去

ミツバチの多くは、針と一緒に毒の入った「毒嚢」を残していくことが多く、毒嚢は自然に縮み、毒液が注入されるため、出来るだけ早く除去する必要があります。スズメバチ系は通常、針を残していくことはありません。

針を除去する際、手でつまんで抜くと毒嚢（どくのう）を押しつぶす形となり、毒を注入する恐れがあります。
針があるか確認し、残っていたらカードなどを使い弾き飛ばすように除去してください。

ステップ2.　毒液を絞り出す

傷口を水で洗い流しながら絞り出します。ハチの毒は水に溶けやすいので、体内にとどまる量を減らし、炎症の軽減に役立ちます。

＊痛がる場合は無理をせずに！！

ステップ 3.　腫れている部分を冷やす

冷やすことで痛みと腫れを軽減することができます。

ヘビ

～問題となるヘビの種類～

マムシ　：あらゆる場所に生息し、出血毒をもっています。毒の量が少ないので大型犬は死に至ることが少ないですが、小型犬は時に死亡することがあります。

ヤマカガシ：水田や小河の近くなどに生息し、出血毒をもっています。牙が奥の方にあるので、よほどしっかり咬まれなければ毒液が注入されることはありません。しかし、抗毒血清がないので注意が必要です。

～動物の様子～

犬では口や前足を咬まれることが多く、痛みのため咬まれた所を引っかくような行動をとります。毒が激痛と腫れを引き起こし、皮下出血や吐き気が起こり、二次的に麻痺もおきます。

犬の動きを制限する

活発に動くことにより毒が早く全身に回ってしまいます。歩かせたり、暴れさせずに、出来るだけ早く病院へ連れて行ってください。

✖ 絶対にしないで！！

傷口を冷やしてはいけません。冷やすと逆に組織の破壊を促進します。

毒液を吸い出してはいけません。口内に傷や虫歯がある場合そこから毒の影響を受けてしまいます。

ヘビの毒は回るのが遅いため、紐によって拡散が抑えられるというよりも、酸素不足を招いてしまいます。

12/30 午後～1/3 までの間、お正月のため休診いたします。
緊急の方は 9:00～10:00 までの 1 時間の間に来院ください。
その他の時間は《フリーダイヤル》0120-79-7411　までお問い合わせください。
1/4 からは通常通り診察いたします。